

## 日常診療を変えるエビデンスを皆様へ。

2023年12月 vol.1

日頃より「今日の臨床サポート」をご愛顧いただき、ありがとうございます。

2023年10月に改訂された臨床レビューの中から、日常診療に大きく影響を与えるようなエビデンスをご紹介します。

<b>大腸憩室症</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。</li> <li>・内視鏡治療の1つに留置スネア法（EDSL）がある。EDSLは留置スネアを用い、内視鏡の再挿入を必要としない新たな止血法である。EDSLは結腸憩室出血の治療に有用かつ安全であることが示されている（Akutsu D, et al. Gastrointest Endosc. 2018 Aug;88(2):370-377.）。</li> <li>・大腸憩室出血に対する緊急内視鏡に関して、Nationwide DPCデータベース研究（後ろ向き観察研究）が報告されている。大腸憩室出血患者において、24時間以内に施行する緊急内視鏡検査の有用性は確認できなかった（Ichita C, et al. Dig Endosc. 2023 May;35(4):520-528.）。</li> </ul>
<b>下血・血便</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。</li> <li>・下部消化管出血・大腸憩室出血に対する大腸内視鏡では経口洗浄剤による前処置を禁忌がなければ施行が推奨される。</li> <li>・下行結腸の憩室出血の症例について、画像「Dynamic CTによる出血源の同定」と「内視鏡を用いた診断と治療」を追加し解説した。下部消化管出血では出血源の同定が難しいことがあるが、腹部Dynamic CTを撮影することで出血源の同定に役立つ可能性がある。また、止血術として結紮術を用いることで再出血率の低下に寄与する可能性がある。症例の詳細は臨床レビューを参照されたい。</li> </ul>
<b>肝臓(概要)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「肝臓診療ガイドライン2021年版」の2023年5月30日の変更点（P208 薬物療法アルゴリズムとCQ39）および2023年3月15日に薬価収載されたトレメリムマブ（イジユド）に関して、以下について加筆した。</li> <li>・トレメリムマブ（イジユド）+デュルバルマブ（イミフィンジ）併用療法も、ソラフェニブ内服療法と比較し生存期間の優越性を示したため（GK A-A, et al. NEJM Evidence. 2022;1(8)）、標準的な1次薬物療法の1つとなった。</li> <li>・トレメリムマブ+デュルバルマブ併用療法は肝細胞癌に対する新たながん免疫療法として登場し、門脈本幹に腫瘍侵襲がみられる症例を除くChild-Pugh分類Aの1次治療として有効性と安全性を示した。</li> <li>・一次治療として、アテゾリズマブ（テセントリク）+ベバシズマブ（アバスチン）併用療法とトレメリムマブ+デュルバルマブ併用療法があるが、これらの治療の選択に関しては、2つの治療法の特徴（詳細は臨床レビューの表を参照）をよく理解して選択する。</li> <li>・デュルバルマブ点滴静注療法は門脈本幹に腫瘍侵襲がみられる症例を除くChild-Pugh分類Aの1次治療として、ソラフェニブに対して非劣性を示した。</li> <li>・アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法とトレメリムマブ+デュルバルマブ併用療法のいずれの複合免疫療法に適応がない場合は、ソラフェニブ（ネクサバル）またはレンバチニブ（レンビマ）内服療法またはデュルバルマブ点滴静注療法が推奨される。</li> <li>・また、肝臓の薬物療法については、以下のコンテンツも参照されたい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>肝臓（薬物療法）</b> （<a href="https://clinicalsup.jp/jpoc/contentpage.aspx?diseaseid=1881">https://clinicalsup.jp/jpoc/contentpage.aspx?diseaseid=1881</a>）</li> <li>▶ 「肝臓診療ガイドライン 2021年版」において2023年5月30日に変更された「薬剤療法アルゴリズム」を追加した。また、最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。</li> </ul> </li> </ul>

## 『今日の臨床サポート』とは

エビデンスに基づく日本語によるリファレンスツールです。  
約1,430の疾患・症状概要、診断・治療方針などをご覧になることができます。  
ジェネリックを含む薬剤情報、疾患・症状の患者向け説明資料、インターネット版ではPubMedへのリンクもご用意しています。

QRコードまたはURLからアクセスできます。 イントラ版をご契約の施設では、院内端末からログインなしでご覧になることができます。



<https://clinicalsup.jp/jpoc/>

ログインには、①ユーザー名、②パスワード、③施設コードが必要です。管理者の方にご確認ください。

